

日医発第 362 号(健Ⅱ)
令和 5 年 5 月 1 6 日

都道府県医師会担当理事 殿

日本医師会常任理事
渡 辺 弘 司
(公印省略)

子どもの誤飲事故防止に向けた啓発活動へのご協力のお願い

日本中毒情報センターでは、家庭用品や医薬品・農薬等の化学物質に起因する急性中毒について、電話相談にて毒性情報や治療情報等を提供すると共に、中毒防止に向けて啓発活動を行っています。

近年、子どもの誤飲事故が多発しており、同センターの電話相談への問い合わせは乳幼児の誤飲事故が大部分を占め、中でもたばこ（加熱式含む）の誤飲が最も多いことから、子どもの誤飲事故防止に向けたリーフレット・ポスターが作成され、本会に対して周知方協力依頼がありました。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、郡市区医師会及び関係医療機関に対する周知方ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

2023年5月11日

公益社団法人 日本医師会
会長 松本 吉郎 殿

公益財団法人 日本中毒情報センター
代表理事 吉岡 敏治
(公印省略)

子どもの誤飲事故防止に向けた啓発活動へのご協力をお願い

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素から当法人の活動にご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて当法人は、家庭用品や医薬品・農薬等の化学物質に起因する急性中毒について、医療従事者並びに全国民に対して、毒性情報や治療情報等を提供すると共に中毒防止の啓発活動を行っております。設立以来、これまでに対応した電話相談は150万件を超え、中毒情報データベースの収録索引数も19万件に上っております。

近年は洗濯用パック型洗剤、水でふくらむビーズ、加熱式たばこ等の中毒事故に加え、コロナ禍において除菌剤、消毒剤等を誤飲する子どもの事故が多発しております。子どもの誤飲事故を防ぐためには、子どもの手の届かないところで適切に保管管理をする等、周りにいる大人の注意が不可欠であることから、ポスター・リーフレットを作成して全国に広く配布して啓発に努めております。

つきましては、貴医師会会員様の運営される施設におかれまして、添付の啓発ポスター・リーフレット等の配付・掲出のご依頼を申し上げるに際し、貴医師会様のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ご理解とご高配のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

謹白

お問い合わせ先

公益財団法人日本中毒情報センター 本部事務局 事務局長 藤田

Tel : 029-856-3566 Fax:029-856-3533 E-mail : head-jpic@j-poison-ic.or.jp

大変危険です。

子どもの誤飲!!

子どもは「はいはい」や「伝い歩き」をするようになると、手に触れたものを何でも口に入れるようになります。公益財団法人 日本中毒情報センターの中毒110番への問い合わせは5歳以下の小児、特に**生後6カ月～2歳未満**の乳幼児の誤飲事故が大部分を占めています。

下の絵は誤飲事故の多いものです。このようなものがお子さんの**手**の届くところに放置されていませんか？

たばこ(加熱式含む)



くすり



化粧品



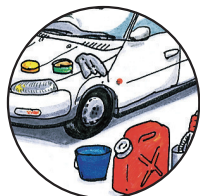
洗剤・洗浄剤、漂白剤



家庭用殺虫剤、防虫剤
(殺虫スプレー、ホウ酸団子など)



危険がいっぱい!



カー用品、灯油



芳香剤、消臭剤



乾燥剤、保冷剤



文具、おもちゃ、電池

ストップ!! 子どもの誤飲事故

▼大人がちょっと目を離した際に起こります!!

誤飲事故は、台所仕事をする、電話にでる、洗濯物を干すなど、子どもからほんのちょっと目を離した際に、あるいは大人が見ている目の前でも起こります。

詳しくは、日本中毒情報センターwebサイト <https://www.j-poison-ic.jp> の「一般の皆さま」をご覧ください。

▼大切なことは、事故の防止です。

子どもの誤飲事故は、子どものまわりにいる大人が注意することで防げます。注意するものは、子どもの年齢に応じて変わります。

日頃から危険なものを子どもの手の届かない高い所か、鍵のかかる所に保管する心がけが必要です。

●年齢に応じて子どもの目線も変わります。



年齢の目安	注意するもの(後始末や保管管理)
6カ月～12カ月	床や畳など、低い位置のものに注意 たばこや吸殻、床の上のホウ酸団子や液体蚊取り
1歳～2歳	テーブルの高さにあるものにも注意(台に登ることがある) リモコン・玩具・キッチンタイマーの電池 洗面台や流しの下洗剤、ポリタンクの灯油ポンプ 防虫剤、鏡台の化粧品、シャボン玉液などの玩具
3歳～5歳	高い場所にも注意(行動範囲がより広がる) 棚の上の救急箱、引き出しの中のくすり 冷蔵庫の中のシロップ薬、流しの漂白中のコップ



日本中毒情報センター
webサイト

子どもの誤飲事故が起こったら 応急手当の基礎知識

- ・意識がない、けいれんを起こしているなど、すでに重い症状がある時は、直ちに救急車を呼びます。意識があり、呼吸・脈拍に異常がない場合は、何を、どの位の量を誤飲して、どの位の時間が経っているのかを確認し、症状がある時は、すぐに医療機関を受診します。
- ・家庭で無理に吐かせると、吐いたものが気管に入ってしまうことがあります。危険です。下表のように牛乳や水を飲ませて薄めるとよいものもありますが、飲ませるとよくないものもあります。

誤飲したもの (赤字のものは吐かせてはいけません)	牛乳を飲ませる	水を飲ませる	理由
石油製品 (灯油、マニキュア、除光液、液体の殺虫剤など)	×	×	・吐かせたり、牛乳または水を飲ませることで吐きやすくなると、吐物が気管に入りやすくなり、入ると肺炎を起こす。
容器に「酸性」または「アルカリ性」と表示されている製品 (漂白剤、カビ取り剤、トイレ/パイプ/換気扇用洗剤など)	○	○	・誤飲時にのどや食道に「やけど」を起こしており、吐かせると薬剤が再びのどや食道を通るため「やけど」がひどくなる。 ・牛乳または水は薬剤の「やけど」を起こす作用を和らげる。
防虫剤 (しょうのう、ナフタレン、パラジクロルベンゼン)	×	—	・しょうのう(樟脳)は吐かせると、けいれんを起こしやすくなる。 ・防虫剤は牛乳に含まれる脂肪に溶けて体内に吸収されやすくなる。
たばこ(葉、吸殻、加熱式含む)	×	×	・たばこの有毒成分「ニコチン」が体内に吸収されやすくなる。
界面活性剤を含む製品 (洗濯用や食器用の洗剤、シャンプー、石けんなど)	○	○	・牛乳または水はのどや食道、胃に対する界面活性剤の刺激を和らげる。
石灰乾燥剤、除湿剤など	○	○	・牛乳または水は薬剤の「やけど」を起こす作用あるいは刺激を和らげる。

×:行ってもいけない、○:行ったほうが良い、—:どちらでもない

中毒110番 一般専用電話 判断に迷ったら問い合わせを！

*あわてずに誤飲したものを手に持って、お子さんの年齢や体重、誤飲したものの正確な名称、飲んだ量など事故の状況をお伝えください。

大 阪：072-727-2499 つくば：029-852-9999

(365日 24時間対応)

(365日 9~21時対応)

化学物質(たばこ、家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによる中毒事故が実際に起きて、どう対処したらよいか迷った時にご相談ください。応急手当や受診の必要性を薬剤師、獣医師がアドバイスします。

ただし、異物誤飲(プラスチック、石、ビー玉など)や食中毒、慢性の中毒(アルコール中毒、シンナー中毒など)や医薬品の常用量での副作用についての相談には応じていません。



たばこの誤飲

■小児の誤飲事故が一番多いのは「たばこ」です

中毒110番への5歳以下の誤飲・誤食事故の相談で一番多いのは、たばこ(吸殻、加熱式を含む)です。たばこ誤飲事故専用電話を含めると、1日10件以上の相談が寄せられます。

たばこや灰皿を小児の手の届く場所に置かないようにしましょう。

また、ジュースやビールの空き缶を灰皿の代わりに使うのはやめましょう。



■「たばこ」を食べてしまったら

症 状

30分～4時間後に吐いたり、顔が青白くなり、よだれや冷や汗が多く出たり、元気がなくなったりといった症状が現れます。

その時の対応

1. たばこの葉や吸殻を大量に(紙巻たばこ2cm以上、加熱式1本以上)食べた時、あるいは、灰皿の水などたばこが浸かった液を飲んだ時は、すぐに医療機関を受診します。
2. 乾いたたばこを少量(紙巻たばこ2cm未満、加熱式1本未満)食べた時は、症状がなければ家庭で経過を観察します。経過観察中に症状があらわれた時はすぐに医療機関を受診します。まる1日(24時間)経って異常がなければ安心できます。

【注意】 たばこに対する感受性は個人差が大きく、少量でも症状が出る場合があります。

たばこ誤飲事故専用電話
(自動音声応答による情報提供)

072-726-9922 (365日 24時間対応)

大変危険です。

子どもの誤飲!!

子どもは「はいはい」や「伝い歩き」をするようになると、手に触れたものを何でも口に入れるようになります。

公益財団法人 日本中毒情報センターの中毒110番への問い合わせは5歳以下の小児、特に**生後6カ月～2歳未満**の乳幼児の誤飲事故が大部分を占めています。

下の絵は誤飲事故の多いものです。このようなものがお子さんの**手**の届くところに放置されていませんか？

たばこ(加熱式含む)



くすり



化粧品



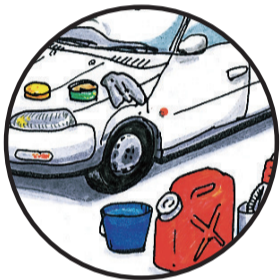
洗剤・洗浄剤、漂白剤



家庭用殺虫剤、防虫剤
(殺虫スプレー、ホウ酸団子など)



危険がいっぱい!



カー用品、灯油



芳香剤、消臭剤



乾燥剤、保冷剤



文具、おもちゃ、電池

ストップ!! 子どもの誤飲事故

子どもの誤飲事故は、子どものまわりにいる大人が注意することで防げます。注意するものは、子どもの年齢に応じて変わります。日頃から危険なものを子どもの手の届かない高い所か、鍵のかかる所に保管する心がけが必要です。

●年齢に応じて子どもの目線も変わります。

年齢の目安	注意するもの(後始末や保管管理)
6カ月～12カ月	床や畳など、低い位置のものに注意 たばこや吸殻、床の上のホウ酸団子や液体蚊取り
1歳～2歳	テーブルの高さにあるものにも注意(台に登ることがある) リモコン・玩具・キッチンタイマーの電池 洗面台や流しの下洗剤、ポリタンクの灯油ポンプ 防虫剤、鏡台の化粧品、シャボン玉液などの玩具
3歳～5歳	高い場所にも注意(行動範囲がより広がる) 棚の上の救急箱、引き出しの中のくすり 冷蔵庫の中のシロップ薬、流しの漂白中のコップ



中毒110番 一般専用電話 判断に迷ったら問い合わせを!

*あわてずに誤飲したものを手に持って、お子さんの年齢や体重、誤飲したものの正確な名称、飲んだ量など事故の状況をお伝えください。

大阪: 072-727-2499 **つくば: 029-852-9999**

(365日 24時間対応)

(365日 9～21時対応)

化学物質(たばこ、家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによる中毒事故が実際に起きて、どう対処したらよいか迷った時にご相談ください。応急手当や受診の必要性を薬剤師、獣医師がアドバイスします。

ただし、異物誤飲(プラスチック、石、ビー玉など)や食中毒、慢性の中毒(アルコール中毒、シンナー中毒など)や医薬品の常用量での副作用についての相談には応じていません。

たばこ誤飲事故専用電話 072-726-9922 (365日 24時間対応)

(自動音声応答による情報提供)

*詳しくは、パンフレットまたは日本中毒情報センターwebサイト <https://www.j-poison-ic.jp> の「中毒110番・電話サービス」や「一般の皆さま」をご覧ください。

制作: 公益財団法人日本中毒情報センター

